

## 4 地球環境関係データ

### ■概要

#### (1) 大阪府域における温室効果ガス排出量の推移

府域における 2010（平成 22）年度の温室効果ガス排出量は 5,081 万トンであり、1990（平成 2）年度と比べ 12.1%減少し、前年度と比べても減少しています。また、2010 年度の二酸化炭素排出量は 4,990 万トンであり、1990 年度と比べ 3.2%減少し、前年度と比べると増加しています。

（排出量は、各年度の全国の電力排出係数を用いて算定している。）

#### (2) 大阪府域におけるエネルギー消費量の推移

府域の石油製品の販売量等から算定したエネルギー消費量は、1990（平成 2）年度以降は、全体としては増加と減少を繰り返していますが、2010（平成 22）年度は 719PJ（PJ＝千兆ジュール）であり、1990 年度と比べ 7.5%減少し、前年度と比べても減少しています。

#### (3) 新エネルギー等の導入実績

府における新エネルギー等の導入実績（平成 23 年度）については、太陽光発電が 17.9 万 kW であり、前年度と比べ、3.6 万 kW 増加しています。また、廃棄物発電が 22.7 万 kW（平成 22 年度実績）、天然ガスコージェネレーションが 54 万 kW などとなっています。

#### (4) 酸性雨（酸性沈着）

「酸性雨」とは、以前は大気汚染物質である硫黄酸化物や窒素酸化物の影響により、降水の pH が酸性（pH5.6 以下）を示す雨のこととされてきました。しかし、現在では「酸性雨」は単に降水（湿性沈着）だけでなく、粒子状物質やガス状物質（乾性沈着）をあわせた「酸性沈着」として、国境を越えた広域的な問題としてもとらえられています。これらは土壌、樹木、湖沼などの生態系に影響を及ぼすおそれがあるといわれています。

府では全国的な酸性沈着に関する調査に参画するとともに、府内自治体と共同して梅雨期、秋期に調査を実施しています。これまでの調査結果によれば、全国的に平均 pH4.7 前後の酸性雨が降り続けていることが示されており、将来、これらによる影響が顕在化するおそれが考えられ、今後も注意深く監視を続ける必要があります。